

主観的映像生成方法、主観的映像生成プログラム、主観的透視投影システム

<p>概要 ・品質 ・性能</p>	<p>人が自然な両眼視の状態で見覚する知覚像を二次元表示画面に表示する映像生成方法、プログラム、記録媒体および透視投影システム。 近年、高度なデジタル情報処理技術により質の高い映像生成が一般家庭でも可能であるが、従来の技術による「実世界の複写」では、「人の主観的な知覚像」と相違があり、映像の臨場感・迫力に限界がある。当技術は、人の主観的知覚像を定量化した、主観的大きさ関数を用い、物理的映像に主観的大きさ関数に従った修正を加え、人の見え方とほぼ同じような像を作る。</p>	<p>対象の大きさを何らかの基準に従って変換 ⇒ 見えたと感じる大きさ</p>
<p>用途</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感性、知覚を重視した画像再生 ・業務用/一般家庭用の映像生成機 ・ヒューマンインターフェース構築に関わる理論・技術として 	<p>技術移転</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 形態：特許実施権供与 (2) 相手先：問わない (3) 地域：国内・海外いずれでもよい
<p>実用化 ・情報</p>	<p>[試作・実験] 未了 [製造・販売実績] 無し [技術情報の提供] 特許公報等 [情報提供者] ㈱メディア・アイ 代表取締役 山岡 嘉剛 [連絡先] (公財)りそな中小企業振興財団 TEL:03-3444-9541 FAX:03-3444-9546</p>	<p>特許等</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 特許番号：第3416124号 登録日：2003/04/04 発明名称：主観的透視投影システム 権利者：山岡嘉剛、梶谷哲也 (2) 特許番号：第4216276号 登録日：2008/11/14 発明名称：主観的映像生成方法、主観的映像生成プログラム、主観的映像生成用記録媒体および主観的透視投影システム 権利者：山岡嘉剛、梶谷哲也